



拡声系サウンドシステムのルーツとSR

拡声系サウンドシステムの基本はPA（Public Address = パブリックアドレス）とよばれ、1930年代以降、政治家の演説に用いられるなど次第に普及しはじめました。日本でもトランジスターメガホンが開発されると、選挙など本格的にPAの時代が訪れることとなります。

やがて、第二次大戦以降には米国でエレキギターなどの電気楽器が本格的に登場すると、PAにも音楽演奏の拡声を目的とした、質の高いシステムの必要性が生まれました。これがSR（Sound Reinforcement = サウンド・リインフォースメント）と呼ばれるもので、日本においても、音楽業界ではPAと区別して扱われています。



写真：1958年（昭和33年）頃のPA機器出荷の様子